

2018.09.09.

## 2018年度秋季リーグ戦「開会式会長あいさつ」

関西大学バレーボール連盟 会長 山本章雄

大会に参加の選手の皆様、チームスタッフの皆様、学連役員・委員の皆様、審判員の皆様、おはようございます。2018年度秋季リーグ戦の開会に際し、ご挨拶とお願いを申し上げます。

本日より10月21日まで6週間にわたり、関西各地に於いてリーグ戦が開催されます。参加の各チーム、選手の皆様におかれましてはリーグ戦を目指し、個人技能の向上、チーム力の強化に励んでこられたことと思います。

特に今年の夏は猛暑に見舞われ、熱中症対策などが大変であったのではないかと思います。またそれに加え、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、先日襲来いたしました台風21号など自然災害も頻発し、被災を乗り越えての練習にご苦労があったことと考えます。

どうか本大会では、その培われた力を十二分に発揮され、参加全ての皆様が素晴らしい成果を挙げられますことをお祈り申し上げます。

さて、いま日本のスポーツは2020年開催の「東京オリンピック・パラリンピック」に向け、社会の注目を浴び、期待を背負っております。われわれ大学スポーツもその恩恵を受けていると言えます。

しかし一方では、アメリカンフットボールの危険タックルに端を発した大学スポーツのガバナンス問題、アジア大会遠征中に起こったバスケットボール選手のあつてはならない行為、体操競技協会に於ける強化のあり方に関連する問題など、スポーツ界はそのあり方に関して社会の批判を浴びています。

私は、このような問題が頻発するのは単なる偶然ではなく、必然であると考えています。それは日本のスポーツが100年の歴史を経て制度疲労を起こし、運営に慢心したムードが立ちこめているからだと思います。

われわれは、このような状況を率直に反省し、日本スポーツの未来を創る義務があると考えております。また、関西大学バレーボール連盟はリーダー的組織としてその先頭に立ち組織改革、運営改革などを進めなければなりません。

特に、ここにおられる24チームの皆様は、関西学連加盟143チーム、登録者2500余名のトップにおいでになる方々です。そうした意味で皆様方には、単に競技力が高いという面だけではなく、スポーツと正しく取り組む姿勢、民主的な組織運営、人として尊敬される日常生活などにおいてもトップであって頂きたいと考えております。皆様方の自覚と協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本大会の開催にあたりご支援を頂いております関係の皆様、会場をご提供頂いております大学の皆様に御礼を申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

皆様頑張ってください。 有り難うございました。